

- 今日のニュース
 - 政治
 - 経済
 - 国際
 - スポーツ
 - 社会
 - 訃報

社会

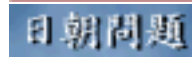
カテゴリー一覧

- 地域ニュース
 - 石川
 - 富山

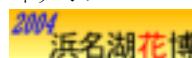
- 加賀能登発
- こちら富山支局
- 北陸経済NEWS
- 北東アジアのページ
- 教育のページ
- 日本海文学大賞
- あつたか情報
- 日銀北陸経済コーナー
- 東海北陸経済



- 2003新春特集



- ドラゴンズ



- 子どもタイムズ
- 放送・芸能
- 囲碁・将棋



- 東海地震/災害
- 2005愛知万博
- 中部国際空港
- 世界の街から
- 新世界事情
- みんなのデジタル
- 科学
- 特集

- メディア規制考
- 米中枢同時テロ
- 連載/テロと家族
- 土曜訪問
- 文学館への招待
- ドナーになれた!
- 特集ライブラリー



- 大図解
- 岳人
- 山ある記投稿欄
- TOKYO-WEEKLY
- 中日新聞の本
- 東京新聞の本
- リンク



災害現場でUFO活躍？

名大など無人飛行機開発



災害時の捜索などに利用が期待される円盤型の小型飛行機＝大阪府東大阪市で

奈良先端科学技術大学院大学、名古屋大などのグループが、UFOを思わせるユニークな円盤型の小型飛行機を開発した。将来的には三百六十度見渡せるように複数のカメラを取り付け、地震時の捜索や救助活動への活用を目指すという。二十四日に初の公開テスト飛行を行う。

円盤タイプの飛行機の基本的な構造は約十年前に米国で設計され、基本技術は確認されている。先端大のウィリアム・リーケン研究員(米国籍)が阪神大震災をきっかけに、災害直後の捜索活動などに活用しようと改良を加えた。

新しい飛行機は炭素繊維複合材製で、カメラを取り付けるスペースを設けた。直径約一・二メートルで重さも約三キロと軽い。約三百メートルの高度まで上昇することができるという。

リーケン研究員は「今後、直径二メートルで、十五台のカメラを備えた飛行機を製作する計画。悪天候時の海難救助などにも利用できる」という。

先端大の千原國宏教授も「離陸までの距離が数メートルと短く、ホバーリング(空中静止)できるのが特徴。よい映像が得られれば、応用範囲は広がる」と期待している。

公開飛行は二十四日午後二時半から、京都市伏見区の関西模型飛行場で予定している。

当日記事一覧

ご質問・お問い合わせ - 著作権について - リンクについて
 Copyright (C) 1995-2003, The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.
 本ページ内に掲載の記事・写真などの一切の無断転載を禁じます